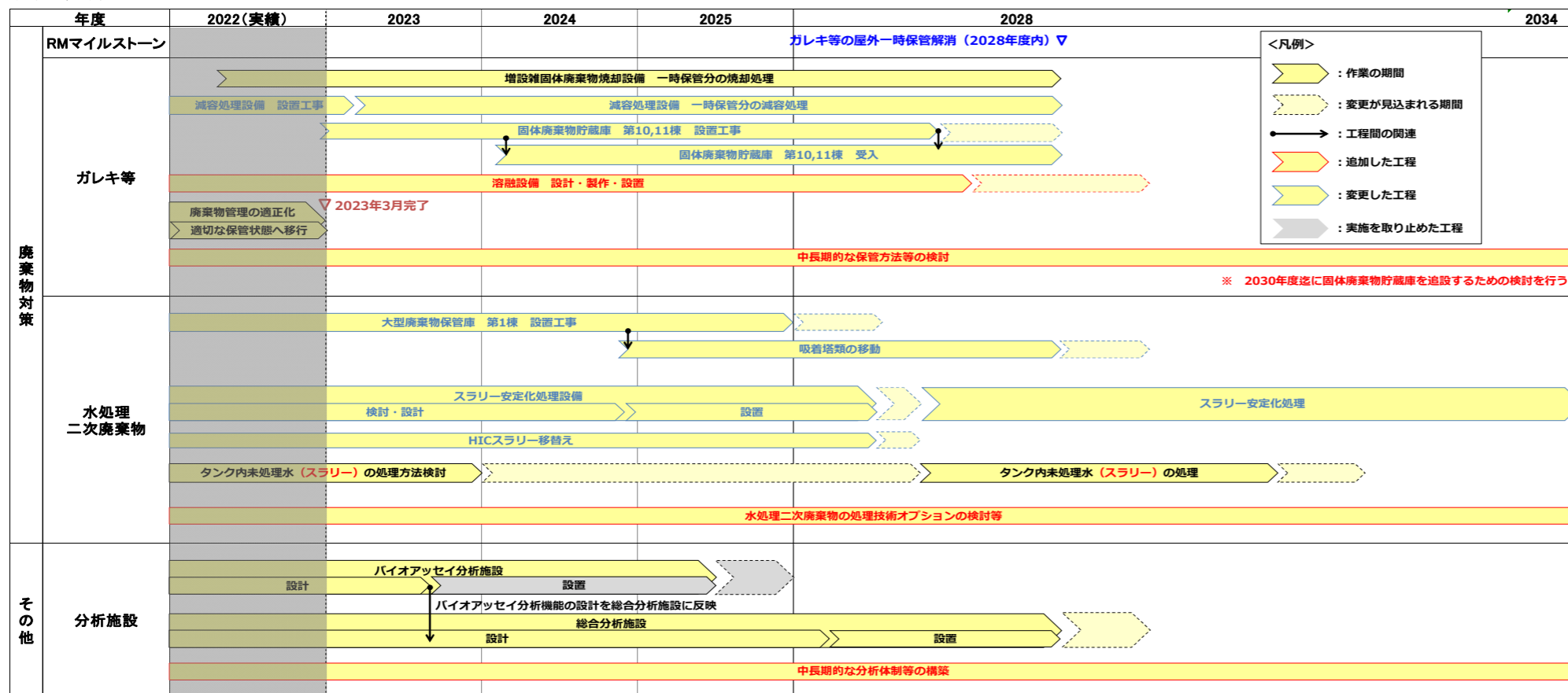


放射性廃棄物処理・処分 スケジュール

分野名	業務中長期実行プラン2023 目標工程	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	4月	5月				6月			7月			8月			9月			10月			11月以降			備考		
					30	7	14	21	28	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
●ガレキ等の屋外一時保管 解消(2028年度内)	1. 保管適正化 の推進	保管管理計画	一時保管エリア の変更	(実績/予定) [A系] [B系]	検討・設計																									
			雑固体廃棄物焼却設備	(実績) ・年次点検 (A・B系) (予定) ・処理運転 (A・B系) ・年次点検 (A・B系)	現場作業	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	年次点検	<ul style="list-style-type: none"> 2023年1月21日からB系、2月4日からA系について年次点検を実施中 2月10日排ガスフィルタB系の点検において腐食による損傷を確認、2月11日にA系についても同様の損傷を確認。 排ガス系統各部の調査を行い、現在、損傷部の修理を実施中。運転再開を7月に予定
			増設雑固体廃棄物焼却設備	(実績) ・スタッカークレーン定格荷重超過原因調査・対策検討 ・対策実施 (予定) ・対策実施 ・処理運転	現場作業	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	対策実施	<ul style="list-style-type: none"> スタッカークレーンの定格荷重を超えての使用が確認されたため、原因調査および対策を検討 対策実施後(仮設置量計設置)、運転再開を6月に予定 ※スタッカークレーンとは、一般の物流倉庫などで使用されている自動倉庫のクレーン
			除染装置 (AREVA) スラッジ	(実績) ・スラッジ対処方法検討 ・建屋内線量低減 ・プロセス主建屋仮設構台の据付、開口部設置 (予定) ・スラッジ対処方法検討 ・建屋内線量低減 ・プロセス主建屋仮設構台の据付、開口部設置	検討・設計	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	スラッジ対処方法検討	<ul style="list-style-type: none"> 2021年11月22日監視・評価検討会を踏まえ、閉じ込め機能に関する設計見直しを実施中 プロセス主建屋内の線量低減対策(干渉物撤去)に用いる過剰重機、スラッジ抽出装置の搬入を目的に、「仮設構台の据付、開口部設置」を実施中 2021年9月16日：仮設構台の据付着手 2022年10月18日：開口部設置の着手 工事進捗を踏まえ、建屋内線量低減工事の工程見直しを実施。
			減容処理設備	(実績) ・内装、設備工事(建築、機電) ・空調バランス不具合原因・対策検討 (予定) ・空調バランス不具合原因・対策検討 ・運用開始、処理運転	現場作業	内装、設備工事(建築、機電)	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	原因・対策検討	<ul style="list-style-type: none"> 空調バランス不具合により、原因調査および対策を検討 対策実施後、運用開始および処理運転開始を予定
			固体廃棄物貯蔵庫第10棟	(実績) ・地盤改良工事(10-A~C棟) (予定) ・地盤改良工事(10-A~C棟) ・建築工事(10-A棟) ・建築工事(10-B棟)	現場作業	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	地盤改良工事(10-A~C棟)	<ul style="list-style-type: none"> 2024年4月：10-A棟竣工 2024年7月：10-B棟竣工 2025年3月：10-C棟竣工 2023年2月10日に実施計画申請の一部修正を実施 2023年2月21日に実施計画変更認可 2023年3月29日に建屋工事着工
			固体廃棄物貯蔵庫第11棟	(実績/予定) ・設計検討	検討・設計	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	設計検討	<ul style="list-style-type: none"> 2021年2月13日の地震に関する影響評価を踏まえ、追加の耐震評価を実施予定(耐震クラスの考え方について検討中)
			大型廃棄物保管庫	(実績) ・設計検討 (予定) ・設計検討 ・建屋補強工事 ・クレーン設置工事	現場作業	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	設計検討(建屋補強、吸着塔架台)	<ul style="list-style-type: none"> 2/13の地震に関する影響評価を踏まえ、2023年度内内部工事開始、2024年度吸着塔受入開始、2025年度耐震補強完了を目標とする。 	
			●水処理二次廃棄物	スラリー安定化 処理設備	(実績) ・安定化処理設備の設計方針検討 (予定) ・適用性、成立性確認 ・安定化処理設備の詳細設計検討 ・建屋現地工事	現場作業	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	安定化処理設備の設計方針検討	<ul style="list-style-type: none"> 2022年9月12日 第102回監視・評価検討会において示された「審査上の観点」を踏まえ、設計見直しを実施中 	

分野名	目標工程	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	4月	5月					6月	7月			8月			9月			10月			11月以降			備考		
				30	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24		31	
固体廃棄物の保管管理 処理・処分計画	●その他廃棄物対策関連作業	3. 固体廃棄物の性状把握	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいたサンプリングの実施 計画に基づいた吸着塔サンプリングの実施 汚染水分析・水処理二次廃棄物分析 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいたサンプリングの実施 計画に基づいた吸着塔サンプリングの実施 瓦礫類分析 汚染水分析・水処理二次廃棄物分析 	検討・設計																						(採取継続)	<p>・オンサイトコールドモックアップの結果を反映した手順に基づいて工程を見直し実施</p> <p>・水処理二次廃棄物：ALPS吸着材等を分析中</p> <p>・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている リスト：https://clads.jaea.go.jp/ip/rd/tech-info.html 検索：https://frandl-db.jaea.go.jp/FRAnDL/</p>	
				現場作業	計画に基づいたサンプリングの実施																							(2024年2月完了予定)
				現場作業	計画に基づいた吸着塔サンプリングの実施	最新工程反映																						(分析継続)
●分析施設	4. 分析・研究施設の設置	JAEA分析・研究施設第1棟	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射性物質を用いた分析作業(分析法の妥当性確認/研究開発による分析を含む) <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射性物質を用いた分析作業(分析法の妥当性確認/研究開発による分析を含む) 	現場作業																						(分析継続)	・2022年6月竣工	
				現場作業	放射性物質を用いた分析作業(分析法の妥当性確認/研究開発による分析を含む)																							
		検討・設計	設計検討(基本設計)																						(2024年3月完了予定)			

廃炉中長期実行プラン2023



注：今後の検討に応じて、記載内容には変更があり得る

増設雑固体廃棄物焼却設備 運転再開について

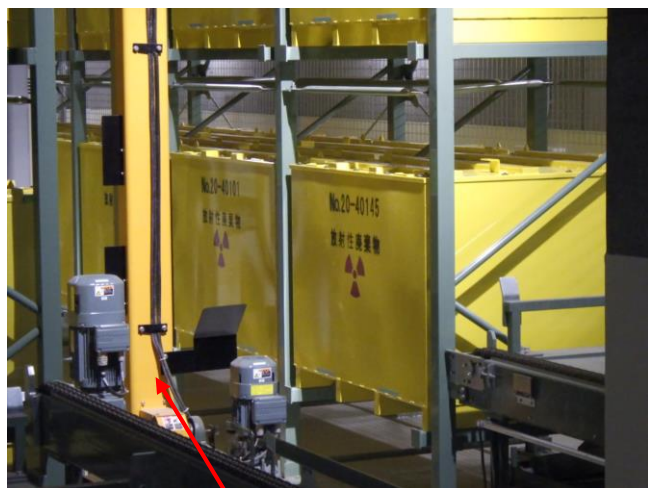
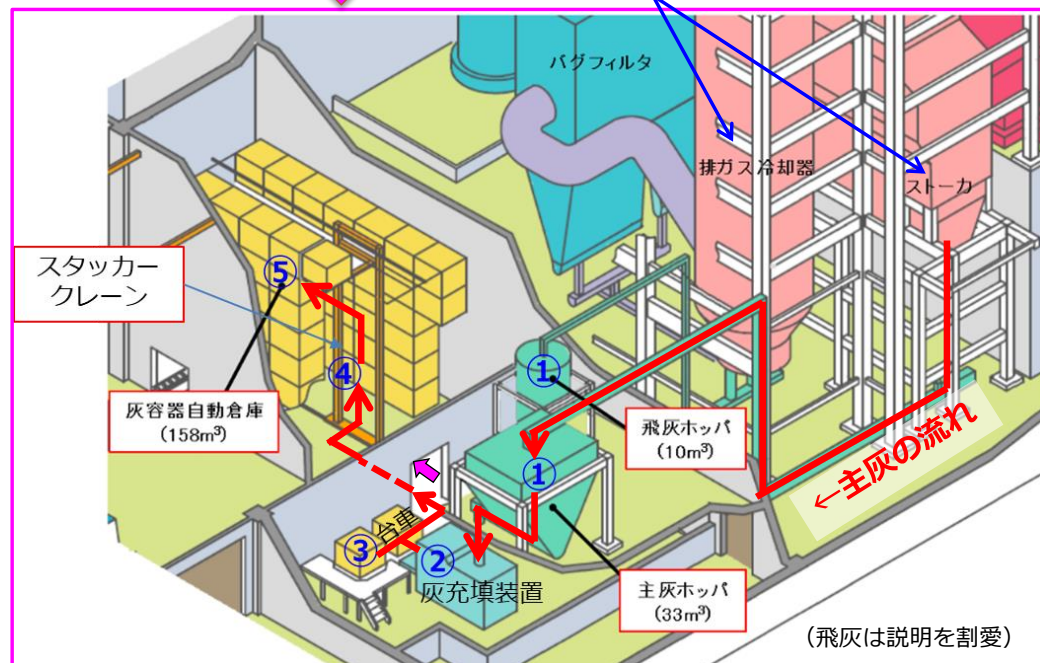
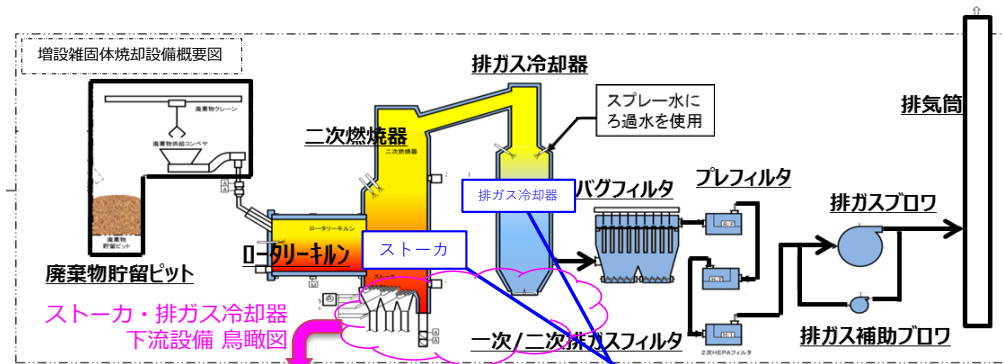
2023年5月25日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

増設雑固体焼却設備 概要

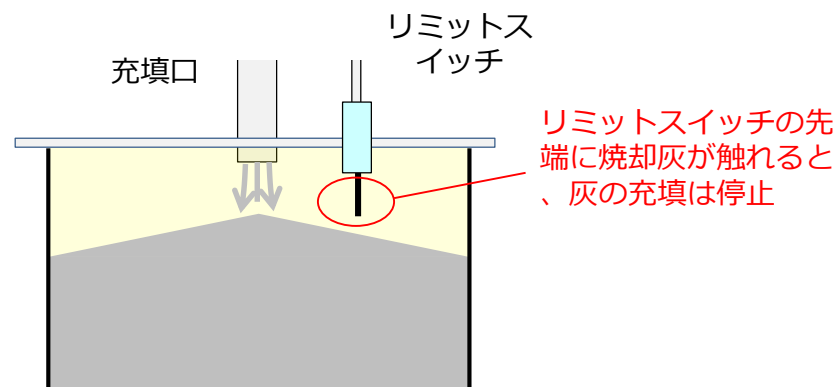
- 増設雑固体廃棄物焼却設備は、主に伐採木、瓦礫類中の可燃物を焼却処理することを目的として設置
- 焼却灰は、主灰ホッパ、飛灰ホッパを介して、灰充填装置にて金属容器に充填
- 充填後、灰容器自動倉庫に一旦保管し、搬出準備が出来次第搬出
- 灰容器自動倉庫内に、焼却灰容器を移動、昇降するためにスタッカークレーンを使用



スタッカークレーン

灰容器自動倉庫 (右図 ピンク矢印箇所より撮影)

- 焼却後の焼却灰は、容器の収納時、リミットスイッチにより灰の充填量を管理
- 焼却灰を収納した容器は、スタッカードレーン（定格荷重1.0t）を使用して移動、昇降
- しかし、一部の容器の重量が1.0tを超えており、当該クレーンで定格荷重以上のものを揚重していたことが判明。クレーン等安全規則二十三条に違反していたことから、3月17日富岡労基署に報告（合わせて不適合を起票）
 - 定格荷重を超過した容器の個数 54基／300基（試運転・運転開始以降の実績）
 - 最大重量 1.18t
- なお、当該クレーンは、据付時の試験において定格荷重の1.25倍（1.25t）での荷重試験を実施しており、これまでの年次点検等でも、設備的な不具合は確認されていない



焼却灰の充填方法

■ 問題点

- 設計時の焼却灰密度と、実際の焼却灰密度とに乖離
 - ⇒設計時は、一般的な灰の密度を考慮し、容器内の灰の充填量（体積）を制限すれば、スタッカークレーンの定格荷重は超えないものとし設計
 - ⇒しかし実際には、設計時よりも焼却灰の密度が高く、スタッカークレーンの定格荷重を超過
- 焼却灰の充填は、リミットスイッチ（LS）を使用した体積管理のみ
 - ⇒スタッカークレーンは重量管理のため、管理方法に不整合あり



■ 問題点解決のための対策方針

- スタッカークレーンの定格荷重を超えない（法令遵守）
 - ⇒スタッカークレーンでの揚重前に、焼却灰容器の重量を測定する

4. 対策について

■ 対策

➤ 焼却灰容器の体積の制限

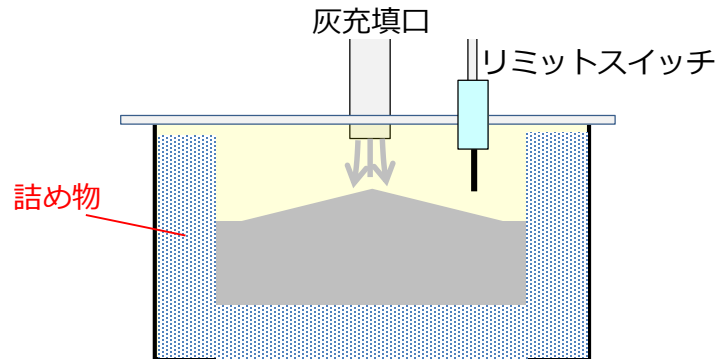
⇒底上げ等の詰め物により、容器の体積を物理的に半分程度に制限
焼却灰容器の重量が、物理的に定格荷重を超えないようにする

➤ 重量計の設置

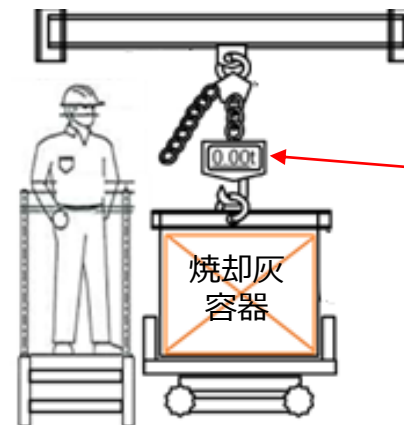
⇒焼却灰を充填後、焼却灰容器をつり上げて重量を測定

なお、

- ・本対策については、労働基準監督署に問題は無いことを確認済み
- ・発生した焼却灰容器は、増設雑固体焼却設備の建屋内で詰め替え、焼却灰容器の充填率を上げて固体廃棄物貯蔵庫に保管する



詰め物をして容器内の体積を物理的に制限することで
充填量を制限

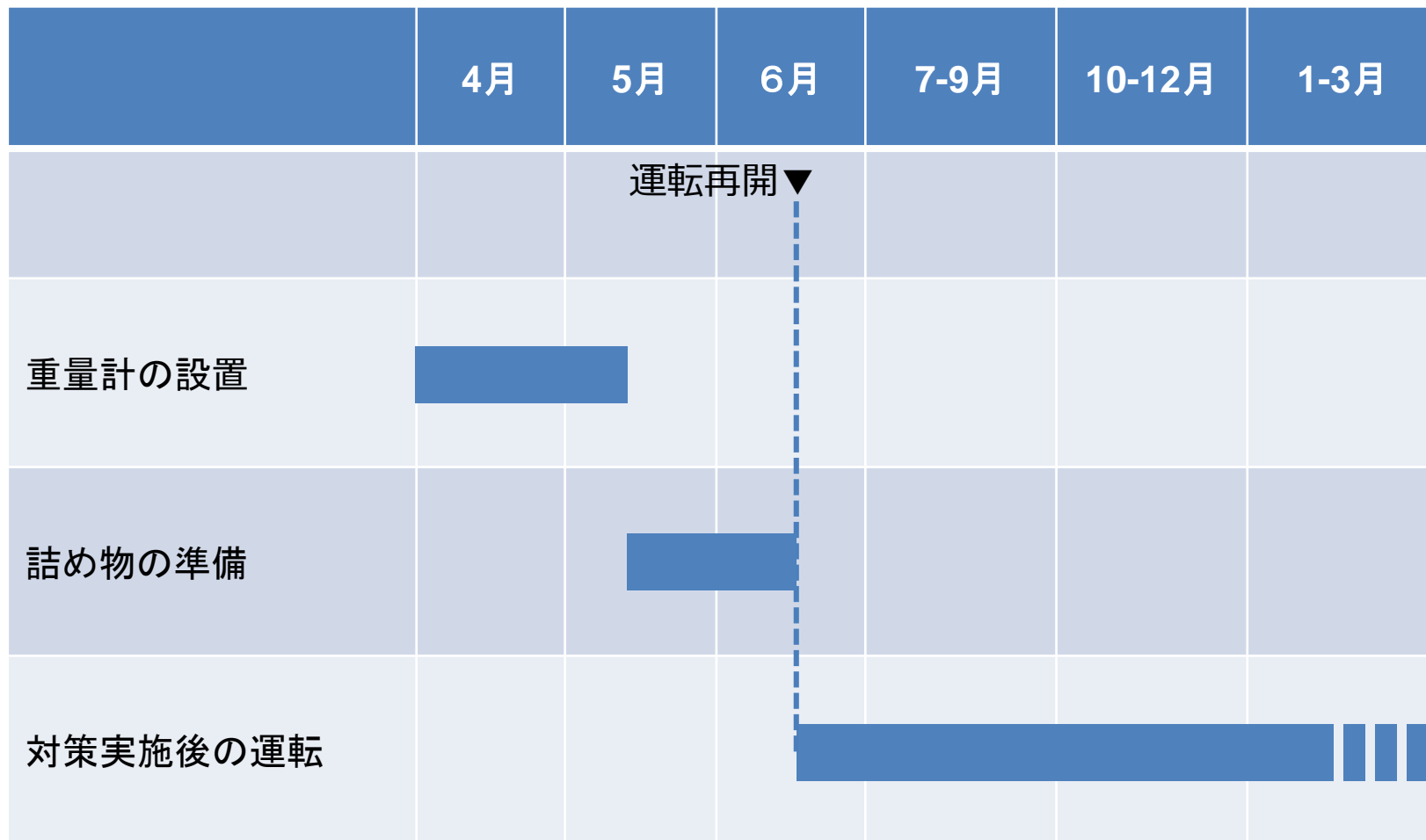


重量計により重量を確認

➤ 追加対策

- ・焼却灰容器の体積制限を行わず、焼却灰の詰め替え無しでも充填率が大きくなる対策を実施（現在検討中）
⇒スタックークレーンの増強や、クレーンを使わない焼却灰容器の移動など

- 重量計の設置等を進め、6月中に増設雑固体廃棄物焼却設備の運転を再開する予定



減容処理設備空調バランスの不具合に伴う 竣工遅延について

2023年5月25日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

減容処理設備の概要

- 減容処理設備は、固体廃棄物のうち不燃物である金属・コンクリートを減容処理する事を目的に設置

◆建屋構造・規模

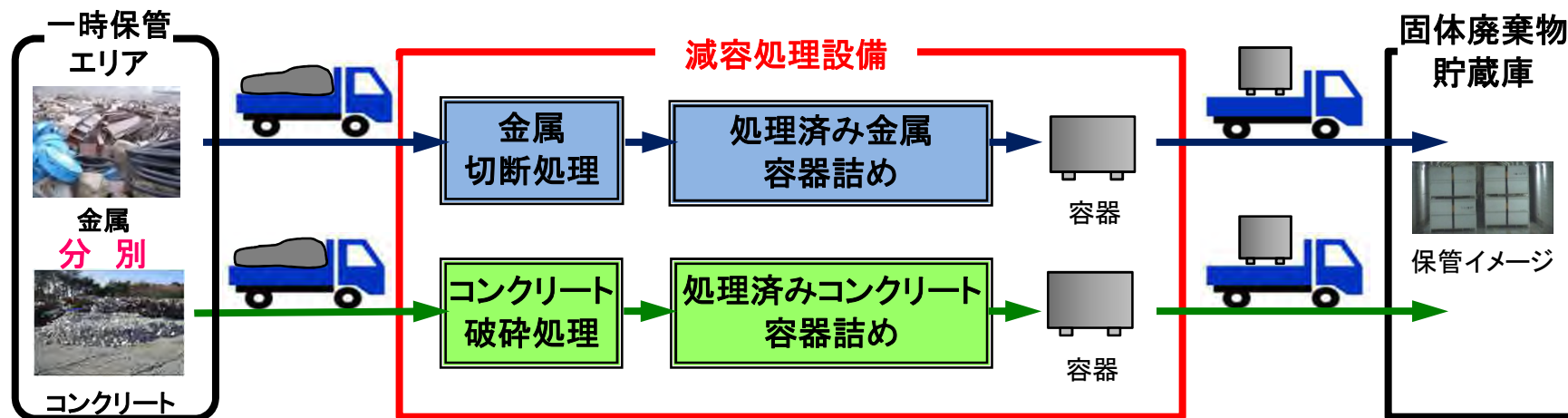
耐震クラス	構造	階数		軒高 (m)	建築面積 (m2)	延床面積 (m2)
		地下	地上			
C	鉄骨造	0	1	約 14	約 5136	約 5102



現場写真



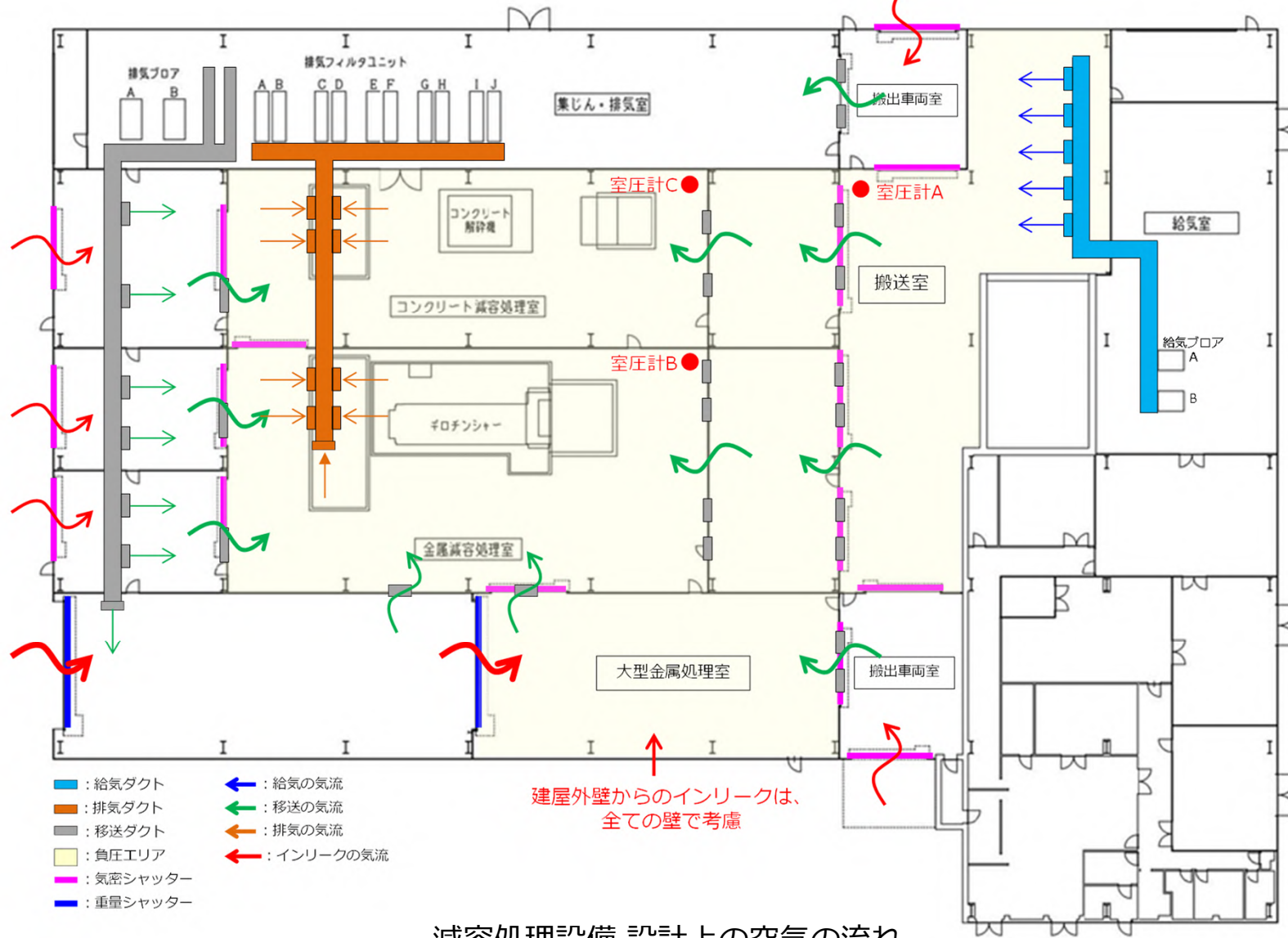
配置図



処理フローイメージ

減容処理設備の概要（換気空調設備）

- 放射性物質の建屋外への飛散防止の為、一部の部屋は負圧維持



減容処理設備の空調バランスの不具合について

- 2023/4/10以降、空調設備のバランス調整作業を実施
- 設計通りにバランスがとれず、条件を変えて試験を実施
⇒結果、室圧計Aで正圧を確認

	試験概要	結果
1	送風機の出力を変更して運転	室圧計Aで正圧を確認
2	ダンパーの開度を変更して運転	
3	排風機の出力を上げて（115%）運転	
4	送風機の出力を下げ（97%）、排風機の出力を上げて（115%）運転	

- 4月19日～21日に風量計やスモークテスターを用いて調査
⇒建屋外部から建屋内に流入する流れ（インリーク）を確認
インリーク箇所、および設計時の想定を超えるインリーク量を確認
⇒建屋南西の重量シャッターに目張りをしたところ、全ての室圧計で負圧を確認（次頁参照）
⇒重量シャッター以外からもインリークを確認しており、原因を特定中
- 4月20日から計画していた使用前検査の受検を延期

減容処理設備の空調バランスの不具合について



建屋南西 重量シャッター (建屋外より撮影)
(幅9.4m×高さ10.8m)



建屋南西 重量シャッター (建屋内より撮影)



目張り実施前
(外壁シャッター上部)



目張り実施中

減容処理設備の空調バランスの不具合の原因と対策 **TEPCO**

- 原因は、設計時とは異なる風の流れやインリークなどが考えられるが、現在究明中
- **至急施工可能な**対策を、5月15～20日に実施
 - ・ インリーク箇所の気密処理
 - ・ 重量シャッターへ刷毛状のものを取り付け、圧力損失を高める
- **追加対策を**検討中
 - ・ 試験結果を踏まえた対応策
 - 【対応策（案）】
 - 正圧となる室圧計A付近への給気量を低減
 - インリークが多く、使用頻度が少ない扉の気密化
 - ダクト追設やジェットファン設置により風量バランスを見直し
 - ・ ・ など
- 6月中旬までに方針を固め、対策を実施



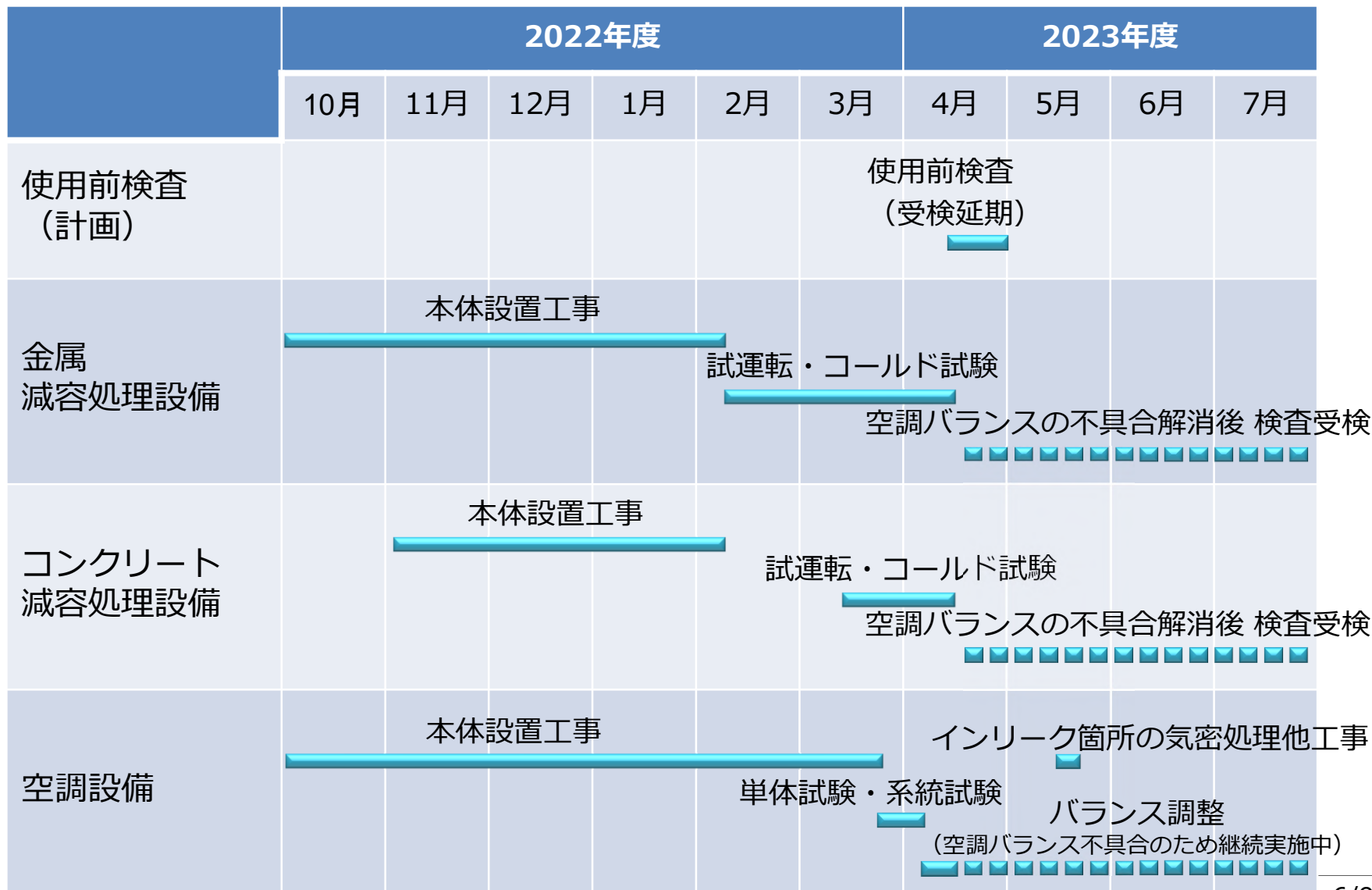
重量シャッター対策（例）
（（株）バーテック殿HPより）



ジェットファン（例）
（GAZOO HPより）

スケジュール

- 対策を実施後、使用前検査を受検予定



【参考】 金属減容処理設備 コールド試験結果

主な確認事項は以下のとおりであり、判定基準を満足することを確認した。

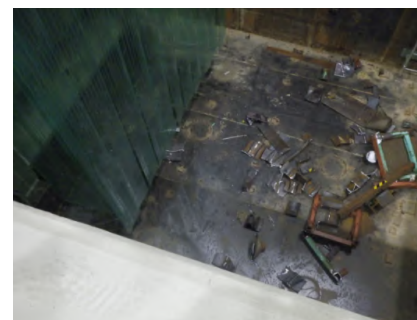
確認事項	判定基準
切断可能寸法の切断状況を確認 設計最大寸法の金属片が切断可能であることを確認した。	指定寸法が切断可能であること。
実運用で想定される金属瓦礫の切断状況を確認 実運用で切断予定のパイプやフランジ、ガスボンベなどを混在させ破碎可能であることを確認した。	切断可能であること。
処理能力、減容率、破碎後の大きさを確認 時間当たりの処理量、切断前後の廃棄物が減少する割合を確認した。	各種条件が以下の条件を満たすこと。 ・処理能力:12m ³ /h以上 ・減容率:50%以上

試験時の写真

切断前



切断後



【参考】コンクリート減容処理設備 コールド試験結果

主な確認事項は以下のとおりであり、判定基準を満足することを確認した。

確認事項	判定基準
切断可能寸法の切断状況を確認 設計最大寸法のコンクリートブロックが破砕可能であることを確認した。	指定寸法が破砕可能であること。
実運用で想定される廃棄物を切断可能であること 実運用で破砕予定のコンクリート辺を投入し、破砕可能であることを確認した。	破砕可能であること。
処理能力、減容率、破砕後の大きさを確認 時間当たりの処理量、破砕前後の廃棄物が減少する割合を確認した。	各種条件が以下の条件を満たすこと。 ・処理能力: 7m ³ /h以上 ・減容率: 50%以上

試験時の写真

破砕前



破砕後



【参考】金属減容処理設備・コンクリート減容処理設備 写真



金属減容処理設備



供給ボックス



押え盤及びシヤー刃



切断装置

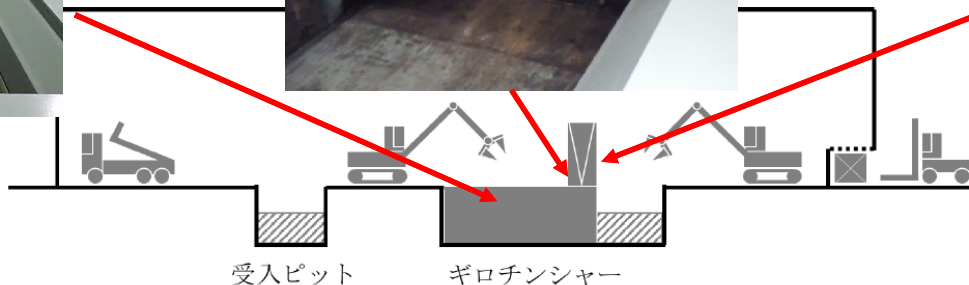


図1 金属減容処理設備 概略図

コンクリート減容処理設備

コンクリート解砕機内部2軸ローラ



コンクリート解砕機及び搬出コンベア

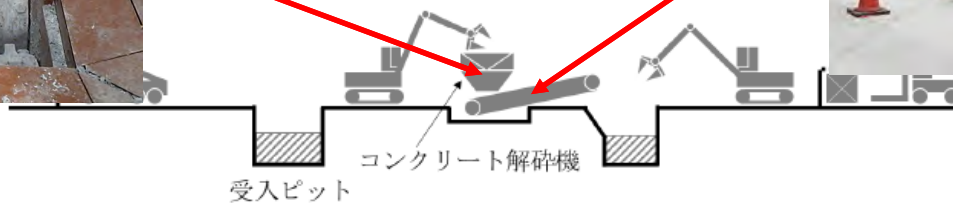


図2 コンクリート減容処理設備 概略図

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2023.4.30時点)

分類	保管場所	保管容量 ^{※1}	保管量 ^{※1}	前回集約からの増減 ^{※1}	エリア占有率	保管量 / 保管容量 ^{※1} 割合	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	13,800 m ³	2,200 m ³	0 m ³	16%	297,100 / 397,900 75%	<ul style="list-style-type: none"> 主な増減理由 港湾関連工事 (エリアC) 港湾関連工事 (エリアF2) エリア整理のための移動 (エリアJ) エリア整理のための移動 (エリアP1) フランジタンク除染作業 (エリアAA) エリア整理のための移動 (エリアBB) エリア整理のための移動 (エリアCC) 1~4号機建屋周辺関連工事 (エリアDD2) 1~4号機建屋周辺関連工事 (エリアK)
		B	5,300 m ³	5,300 m ³	0 m ³	100%		
		C	67,000 m ³	66,600 m ³	微増 m ³	99%		
		D	2,700 m ³	2,600 m ³	0 m ³	97%		
		F1	700 m ³	600 m ³	0 m ³	100%		
		F2	6,400 m ³	5,900 m ³	+600 m ³	92%		
		J	6,300 m ³	6,100 m ³	-100 m ³	97%		
		N	9,700 m ³	9,600 m ³	0 m ³	99%		
		O	44,100 m ³	44,000 m ³	0 m ³	100%		
		P1	62,700 m ³	58,100 m ³	-300 m ³	93%		
		U	800 m ³	700 m ³	0 m ³	100%		
		V	6,000 m ³	6,000 m ³	0 m ³	100%		
		AA	58,000 m ³	23,700 m ³	+100 m ³	41%		
		BB	44,800 m ³	44,600 m ³	+100 m ³	100%		
		CC	18,800 m ³	12,700 m ³	+1,100 m ³	67%		
		DD1	4,100 m ³	0 m ³	0 m ³	0%		
		DD2	6,800 m ³	800 m ³	+800 m ³	12%		
		EE1	8,600 m ³	0 m ³	0 m ³	0%		
		EE2	6,300 m ³	0 m ³	0 m ³	0%		
		d	1,900 m ³	1,200 m ³	0 m ³	62%		
		e	6,700 m ³	6,200 m ³	0 m ³	94%		
		k	9,500 m ³	200 m ³	+200 m ³	2%		
		l	7,200 m ³	0 m ³	0 m ³	0%		
シート養生 (0.1~1mSv/h)	E1	16,000 m ³	13,900 m ³	0 m ³	87%	45,600 / 55,300 83%	<ul style="list-style-type: none"> 主な増減理由 1~4号機建屋周辺関連工事 (エリアW) エリア整理のための移動 (エリアm) エリア整理のための移動 (エリアn) 	
	P2	6,700 m ³	6,100 m ³	0 m ³	91%			
	W	11,600 m ³	9,000 m ³	微増 m ³	77%			
	X	7,900 m ³	7,900 m ³	0 m ³	100%			
	m	4,400 m ³	1,300 m ³	-1,800 m ³	29%			
覆土式一時保管施設、容器 (1~30mSv/h)	n	8,700 m ³	7,500 m ³	微減 m ³	86%	16,400 / 17,200 95%		
	E2 ^{※2}	1,200 m ³	400 m ³	0 m ³	33%			
固体廃棄物貯蔵庫 ^{※2}	L	16,000 m ³	16,000 m ³	0 m ³	100%	29,800 / 39,600 75%	<ul style="list-style-type: none"> 主な増減理由 1~4号機建屋周辺関連工事 	
合計		509,900 m ³	389,000 m ³	+800 m ³	76%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	40,000 m ³	22,000 m ³	+200 m ³	55%	81,400 / 134,000 61%	
		H	43,000 m ³	31,000 m ³	-200 m ³	72%		
		M	45,000 m ³	26,100 m ³	0 m ³	58%		
		V	6,000 m ³	2,300 m ³	微増 m ³	39%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	29,700 m ³	26,200 m ³	0 m ³	88%	37,300 / 41,600 90%	
T	11,900 m ³	11,100 m ³	0 m ³	94%				
合計		175,600 m ³	118,700 m ³	微増 m ³	68%			
使用済保護衣等 ^{※3}	屋外集積	25,300 m ³	16,800 m ³	+1,000 m ³	66%			
放射性固体廃棄物 (焼却灰等) ^{※4}	固体廃棄物貯蔵庫	63,700 m ³	38,100 m ³	微増 m ³	60%			

※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の保管量を微量、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

※2 水処理二次廃棄物 (小型フィルタ等) を含む。

※3 エリアAA、エリアk、エリアjは、使用済保護衣等の保管も行いが、主に瓦礫類を保管するため、使用済保護衣等の保管容量からは除いている。

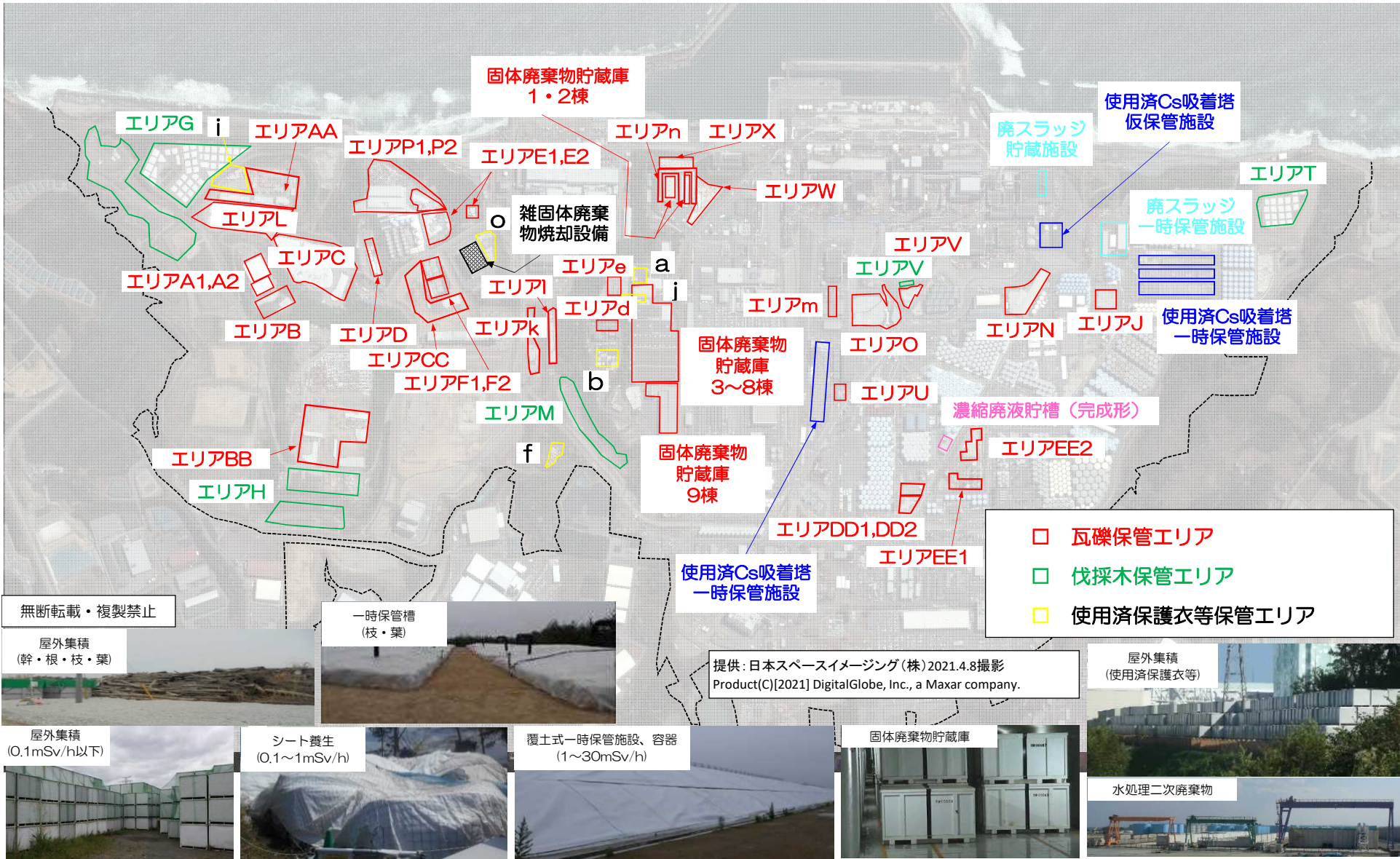
※4 ドラム缶1本を0.2m³、ボックスコンテナ1個を0.8m³として換算している。

水処理二次廃棄物の管理状況(2023.5.4時点)

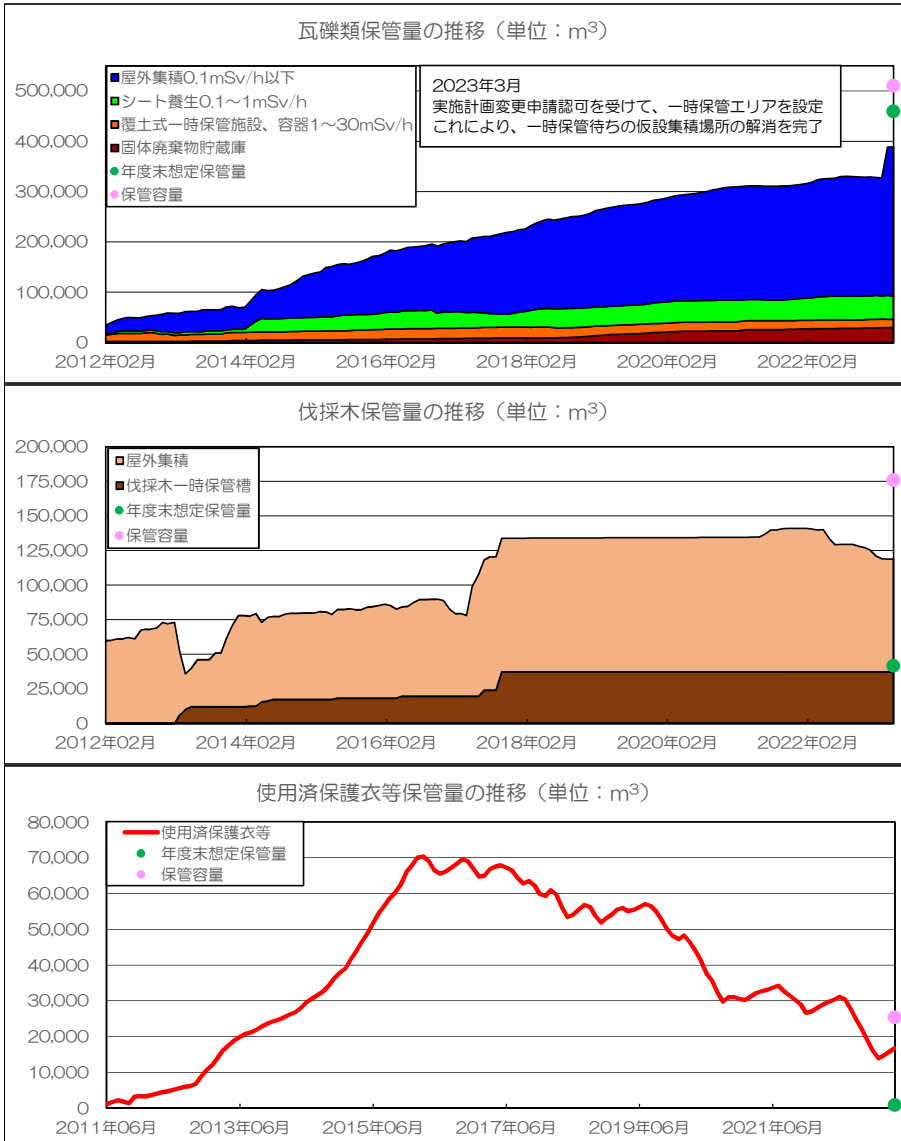
東京電力ホールディングス株式会社
放射性廃棄物処理・処分
2023/5/25

分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減		保管量 / 保管容量 割合	トピックス
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	779 本	0 本		5,562 / 6,500 86%	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	259 本	+2 本			
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	17 本	0 本			
		多核種除去設備等保管容器	4,171 基	+10 基			
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	90 本	0 本			
		多核種除去設備処理カラム	17 塔	0 塔			
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	229 本	0 本			
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	493 m ³	+19 m ³		493 / 700 70%		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,447 m ³	+40 m ³		9,447 / 10,300 92%	<ul style="list-style-type: none"> ・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量： 9,347 m³ ・タンク底部～水位計の保管量(DS)： 約 100 m³ 	

福島第一原子力発電所 固体廃棄物等保管エリアの構内配置図



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2023.4.30時点)



水処理二次廃棄物の管理状況(2023.5.4時点)

